平成２２年度第２回「しあわせ倍増プラン２００９市民評価委員会」
会　議　記　録

Ⅰ　日　時　平成２２年7月２３日（金）１８：３０～２０：４０

Ⅱ　場　所　中央図書館イベントルーム

Ⅲ　議事次第
　１　開　会
　２　議　題
　　(1) 会議録の作成・公表について
　　(2)「しあわせ倍増プラン２００９」取組実績及び達成度等の評価について
　３　その他
　４　閉　会

Ⅳ　出席者
　１　委員（１２名）（敬称略）
　　委　員　長　廣瀬克哉
　　委員長職務代理　長野　基
　　委　　員　磯田和男、伊藤巖、伊藤麻美、猪野智久、川嶋真之輔、栗原俊明、延原正弘、橋本克己、東一邦、町田直典
　２　事務局（５名）
　　近藤　貴幸（政策局総合政策監兼政策局都市経営戦略室長）
　　安田　淳一（政策局都市経営戦略室副理事）
　　西尾　真治（行財政改革推進本部副理事兼政策局都市経営戦略室副理事）
　　榎本　　肇（政策局都市経営戦略室参事）
　　藤澤　英之（政策局都市経営戦略室副参事）
　３　所管職員（１７名）
　　山崎　正弘（市長公室秘書課長）
　　大石　寿生（市長公室参事兼広聴課長）
　　田原　　弘（行財政改革推進本部無駄ゼロ改革チーム副理事）
　　山崎　秀雄（行財政改革推進本部民間力活用チーム参事）
　　真々田和男（行財政改革推進本部行政改革チーム副参事）
　　川島　雅典（政策局政策企画部参事兼企画調整課長）
　　井原　　優（総務局総務部総務課長）
　　塩原　照雄（総務局人事部給与課長）
　　小島　正明（総務局人事部人材育成課長）
　　吉原　栄二（財政局財政部財政課副参事）
　　丸山　彦文（財政局財政部参事兼用地管財課長）

野間　　薫（市民・スポーツ文化局スポーツ文化部長）
平林　　実（市民・スポーツ文化局スポーツ文化部参事兼文化振興課長）
木村あや子（保健福祉局福祉部高齢福祉課長）
岡村　健司（保健福祉局福祉部障害福祉課長）
松井　雅之（子ども未来局子ども育成部子育て企画課長）
松本　政之（教育委員会事務局管理部参事兼教育総務課長）

○事務局

本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

開会前に申し上げます。

「しあわせ倍増プラン２００９市民評価委員会傍聴要領」の定めにより、傍聴人の受付をしておりますが、本日は、１名の方より傍聴の申し出があり、既に入場していただいておりますので、ご報告申し上げます。

１　開　会

○事務局

それでは、これより、平成２２年度第２回「しあわせ倍増プラン２００９」市民評価委員会を開催させていただきます。

まず、はじめに、第１回の市民評価委員会を欠席されました委員さんに自己紹介をお願いしたいと思います。伊藤麻美委員、お願いします。

○伊藤（麻美）委員

皆さん、こんばんは。日本電鍍工業の伊藤麻美と申します。私どもは、さいたま市の北区で貴金属メッキをメインとします表面処理を営んでおります。従業員は現在７０名で、創業５３年目を迎えました。本当にさいたま市さんには長年お世話になっておりまして、多くのさいたま市民の従業員もおりますので、この会を通して、よりよい市、そして住みやすい市を築き上げる少しでもお力になれればと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。本日、栗原委員から多少遅れるという連絡をいただいております。また、江原委員につきましては、前回も欠席でしたが、今回、急遽体調を崩されたというご連絡をいただきまして、本日も欠席ということでございます。

また、本日は、前回の委員会でもお話いたしましたが、今回、評価する予定の１９事業の各所管課の職員が出席をしております。

委員の皆さんからは、市民としての、また、外部の視点から、各事業の疑問に思った点などにつきまして、質問があった場合、対応させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日の委員会資料について確認させていただきます。

まず、Ａ４でクリップどめにしております次第と座席表、所管課職員出席者一覧でございます。

続きまして、前回、配付いたしました「しあわせ倍増プラン２００９取組実績の評価シート」につきましては、本日は、お持ちいただいているかと存じますが、お手元にない方がおられましたら、予備がございますので、配付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

次に、お手元に「委員評価取りまとめシート」を配付しておりますが、これは、各委員さんに、事前評価として達成度、重要度及びそれらに対するコメントを記入していただきましたが、それらを取りまとめさせていただいたものでございます。

資料は以上でございますが、配付もれはございませんでしょうか。
なお、本日も会議記録作成のため、写真撮影と録音をさせていただきますので、あらかじめご了承願います。
それでは、これからの議事の進行は、廣瀬委員長にお任せをいたしたいと存じます。

○廣瀬委員長

それでは、これからの議事進行を執り行いますので、よろしくお願いします。
これより、議題の「（１）会議録の作成・公表について」に入りたいと思います。

２　議　題

（１）会議録の作成・公表について

○廣瀬委員長

この件について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは、「（１）会議録の作成・公表について」ご説明いたします。
ただいま、皆さんのお手元に、前回の委員会、７月２日に開催されました第１回市民評価委員会の会議記録を配付させていただいております。
そちらの方につきましては、前回の委員会でも説明させていただきましたが、委員会の発言要旨をまとめた記録を作成し、市のホームページに公開させていただく予定でございます。
そのため、事前に委員の皆様に内容のご確認をいただき、ご了承をいただいた後に、公開したいと考えております。
つきましては、大変お手数ではございますが、各委員さんでご自分の発言内容をご確認いただきまして、修正などございましたら、次回開催の８月１０日の委員会までに、事務局までその旨をお伝えいただきたいと思います。
なお、ただいま配付した会議記録につきましては、全文表記の完全記録方式となっております。
会議記録の公表に当たりましては、ご異論がないようでしたら、全文表記の完全記録方式とさせていただければと思います。
また、発言者につきまして、委員名を掲載するか、否かにつきまして、どちらの選択肢についても、それぞれ、メリット、デメリットがあるかと思いますが、各委員さんのご意向を確認させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

○廣瀬委員長

今お手元に、前回の会議録の未定稿というものが、これは未だ確認を経ておりませんので、こちらは未定稿という形になりますが、これをとりあえず配付させていただいております。会議録の作成方式といいますか、これをどういう形に取りまとめるかということについては、この段階で確認をしたいと思いますので、ご意見がありましたらよろしくお願いいたします。
今、配られておりますのは、発言を全文掲載して、委員名も個別に全部掲載

するというスタイルで、文字どおりそのまま作ったものとなっております。
　このままの形で、一部修正あるいは、意味の通じにくいところを補正する等の作業をした上で、ご確認をいただいた形でそのまま公表するというのが全文公表といいますか、そのままの公表に近いもの。
　それから、この手の会議録としては、基本的には、逐語ではなくて、どういう趣旨の発言をしたかを取りまとめた形で編集をして、こういう意見があって、こういう答弁があったということがわかるような要約と、それからもう少し、逐語に近いものと、何段階かはあると思いますけれども、そのままではなくて、こういう趣旨の発言があり、それに対してこういう趣旨の説明があったということがわかるような形で編集する場合もございます。
　これは、全文そのままでいくのか、それとも、ある程度要約した形にするのかということ。
　それから発言者の氏名が、特に各委員のお名前については、単に委員となっているような会議録もございます。その方式をどうするかということであります。ただ、傍聴も認める形で、公開もやっている会議でありますので、また、要約等となりますと、その編集をどうするか、その編集したものが各委員の発言の趣旨をちゃんと捉えているのかどうかということ、チェック等もやらなければならないということになりますので、公開度の点や手間の点を考えますと、そのままで。ただ、この発言の記録でいいかどうかということについては各委員に確認をしていただくという形で、今日、お手元に配られたものを確認をしていただいて、確定をしたものを公表するというのが、一番、手間という点では、あまりかからないのかなと思いますが、どの方式をとるかということについて、ご意見がありましたらお願いをしたいと思います。

○伊藤（巖）委員

　３０ページのタウンミーティングを１回開催しましたというところの後の内容については、各区が抱えている問題等をその時に市長が同席して発表していました。というように校正してもらえればと思います。

○廣瀬委員長

　おそらくそういう会議の場の発言ですので、そういう補足的な部分ですので、文章に起こすときには、省略してこういう趣旨で発言したというふうに整理したほうが、公開したときに読み手にとってもわかりやすい部分もありますので、そういう点については、会議録の確認の際にですね、ここはこういう趣旨なのでこういうふうにしてくださいというふうに申し入れをしていただいて、それに沿って確定するということでいかがかと思います。

○伊藤（巖）委員

　それともう一つ、私の名前ですが、３１ページの部分を正しておいてください。

○廣瀬委員長

　それは、ちゃんと確認いただくときに表記がもしチェック漏れがあれば、ご指摘いただければと思います。
　それで、全文表記でということでよろしいですか。ただ、内容についてはチ

ェックをいただいて、こういうふうにという補正は当然、趣旨が伝わりやすいか、読みやすいかというところで、若干の補正はあると思います。

それから、委員名ですけれども、このままの表記でよろしいですか。

（～各委員から「結構です。」の発言あり～）

○廣瀬委員長

それでは、全文表記の完全記録で、発言者名を掲載をするという形で、それぞれの委員から確認をいただいた上で確定をすると。その上で公表をするということで進めたいと思います。

今後その方針で作成するということで確認をいたします。

○延原委員

修正後、いつ誰に渡せばいいですか。

○廣瀬委員長

その手続きについては、まず第１回目については、いつまでにどこに連絡をするということで。

○東委員

どういうふうに、どういう形でそれは。

○事務局

事前評価シートを委員会の事前に提出いただいていますけれども、その際にあわせてメール等でお返ししていただいても結構ですし、次回の８月１０日のときに、直接、見え消しで、赤ペンを入れていただいて、それをその場で渡していただいても結構です。それを早急に直しまして、それ以降に修正したものをホームページにアップさせていただきたいと思いますが、それは、皆様それぞれのやり方でやっていただいたものに対して、我々のほうでお受けしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○廣瀬委員長

意見については、次回の委員会の場までというか、メール等でご連絡いただく場合にはそれ以前でも差し支えないとうことですか。

それから、今日は取りあえず紙でいただいていますけれども、メール等で連絡をしている委員に対しては、メールでデータの形でもとりあえず、この未定稿の段階のものを配付していただくということで。

○事務局

取りあえず、送らせていただきますので、その方については、８月１０日に見え消しでも結構ですので。

○廣瀬委員長

赤ペンで書いてきてもいいし、ファイルに修正をし、こういうふうに修正をしてくださいということで、メールをしてもいいということですね。

では、そういう手続きで進めたいと思いますので、よろしくお願いします。次回以降も、おおむね、前回の委員会の会議録は、少なくともその次の委員会には、配付をされて、でその次回、次回というか、これでいうと、第１回目のが２回目に配付されて、３回目までに確認したものを返すと、そういう形で進めていくということですね。

それでは、会議記録の作成につきましては、その様な形でよろしくお願いいたします。

２　議　題

（２）「しあわせ倍増プラン２００９」取組実績及び達成度等の評価について

○廣瀬委員長

それでは、今日の本題でございますが、議題の（２）「しあわせ倍増プラン２００９」の取組実績及び達成度等の評価について、今回予定をされています評価対象事業、宿題として、それぞれの評価をしていただいております１９事業についての検討をしてまいりたいと思います。

まず、議事の進め方についてですが、前回、欠席の委員もございましたし、また、今回が実質的に評価の内容に入っての議論の初回ということにもなりますので、評価方式につきまして、前回の委員会での議論の結論も踏まえまして、改めて確認をした上で、実質的な議論の内容のほうに入っていきたいと思います。

先ほど事務局から配付資料の確認の際に説明がありましたが、今回の１９項目については、第１回の委員会、前回、事前配付資料として、配付されました１９事業について、市の内部評価の結果としての評価シート、これが配付されました。

そこで内部評価の評価方法については、達成度という評価を１０点満点で付けているわけであります。

達成度の内容ですが、進捗度についてはａ，ｂ，ｃ，ｄですね。上回っている、予定どおり、遅れがあるが実現に向けて実施している、未着手であるか大幅な遅れがある、ということで４段階に分かれて、そのそれぞれに基準点が設定されており、目標を上回っている場合は９点、予定どおりが７点、遅れがあるが実施中というのは４点、未着手や目標に大幅な遅れがあるのは１点として。そのそれぞれに対して、加点・減点の要素を評価して、例えばｂの場合には、加点・減点がなければ７点だけれども加点要素があれば８点、減点要素があれば６点、といった具合に点数が付くという形で内部評価が行われております。

我々、市民評価委員会としては、市民の視点から、このしあわせ倍増プラン２００９の達成度をどう評価するかということが問われるわけですけれども、基礎資料として、まずは内部資料を参照しながら、その根拠となった基データも参照しつつ、だけれども、市民の視点として、客観的にどう評価をするべきかということを今回お願いしているわけです。

実際にやってみなければわからない部分もありますので、前回は、まだやる前の段階として、いろいろと議論をしたわけですけれども、今回、それを踏まえて、最終的にと言いますか、最終は改めて全体を通した上で、もう一度、場合によっては、初期にやったもの等を振り返って、点数なりを確定していくことが必要になるかと思いますが、今回、いよいよ実質に踏み込んだ評価を行うということになりますので、ある程度、前回分からなかった点について、改めて、それぞれの項目を評価する中で、論議しておくことがあれば、改めてそこ

で議論を出していただいて、そこで、この委員会としての評価方針を確定をしていくということになろうかと思います。

それから、前回委員会の中で、提起をさせていただいて、内部評価では、おやりになっていない観点ですけれども、多数の項目を見ていくわけですけれども、その中に、重要度の重いものから、そうでないものがあるだろうということで、これについての評価を加えてはどうかということで、重要度という項目を付け加えさせていただきました。

これについては、Ａ，Ｂ，Ｃの３段階で付けていくということで、重要度が増している、かわらず重要である、重要度が低くなっているという、Ａ，Ｂ，Ｃで取りあえず評価をやっていただいております。

達成度の評価については、いろいろな考え方があると思うのですが、基本的には目標に定められたことを前提として、それがどこまで達成されているかということを見ていくという形になろうかと思います。

その目標について、いろいろとこれは当然、ご意見があると思います。政策目標ですから、目標の立て方自体が的外れではないか、というような評価をお持ちになるような項目も当然出てくるかと思います。

しかし、目標の内容についての評価という部分については、基本的には重要度の側で見ていくと、あまりに、的外れであって、とても重要と思えないという項目があったとすれば、これの重要度での評価で、それを例えば、Ｃという評価を付けた上で、なぜ、そういうＣという評価になるかということについて、評価理由等の形で定性的に確定していく。

それから、進捗度について言うと、これをやりますという目標をしあわせ倍増プラン２００９ということで掲げられていますから、掲げた目標がどこまで進捗しているか、それがちゃんと行われているかどうかということを見ていくということになろうかと思いますので、こちらについては、内容についての評価というものは、重要度に譲って、現にそれを取り組んでいるか、そして、目標までそれを実行できているかどうかという観点での評価ですので、内容について、いかがなものかとは思うけれども、やってはいるという場合には、やってはいるという評価は進捗度の場合であり、内容についての問題提起については、重要度の評価理由のところでこれを指摘していくと、こういう関係の中で、評価をしていく評価表として、とりあえず前回の議論を踏まえて、今回の提出版の評価表をつくって、それによって、作業をしていただきました。

この修正版の重要度を加えた評価表で、評価をしていただいたわけですけれども、これについて、いったん１９項目を通していただきましたけれども、まず、このフォーマットで今後も基本的にはやっていく。個々の項目の評価については、この後にやっていきますけれども、このフォーマットで評価を継続していくということについて、もし、何かご意見がございましたら、この段階で検討すべきことは検討したいと思いますが、いかがでしょうか。

○川嶋委員

このサイズは、何か特別な意味があったのでしょうか。ちょっと大きすぎるような気がして。扱いがあまり楽でなかったのですが、慣れがなかったのかも

しれません。どうしてもということではございませんけれども、もうちょっとコンパクトになればと思いますが。皆さんこのほうがいいということであれば結構ですが。何となく空白が大きいですね。

○廣瀬委員長

紙としては、ちょっと面倒なサイズであることは確かなのですが、多分、電子媒体で書き込まれたりする場合だと、今度は、あまり小さいとですね、書き込む部分が小さくなってしまって、拡大表示すればいいといえばいいのですけれども、とりあえずＡ３版でやっていくということで、Ａ４版のヨコというのもないわけではないと思いますけれども、ちょっと、せせこましいかなと思いますので、その他フォーマットの形式や内容についてありましたら。

○伊藤（麻美）委員

１回目を欠席させていただいたので、確認なのですが、ざっと見させていただいて、皆さん、違う角度で、一つのテーマに対しても様々な角度で捉えられると思うのですよね。ですから、評価はさまざまだと思いますし、価値観はそれぞれ違うので、これが正しいということはないと思うのですけれども、すべてが終わったときには、ある程度方向性を、これだけ意見がバラバラの中で、どの様に統一性をもっていくのかなと、疑問に思ったのですけれども。

○廣瀬委員長

今回は、まず、それをどういう違う観点から、評価をしてきたかということが、特に前回の場合はそれはゼロですし、今回も未だこれからですので、これは収斂していくかもしれませんし、あるいは、収斂していくにしても、進捗についてはある程度、全体としてある評価基準というのが、かなり共有されて、おおむね評価が一致して出てくるように、だんだんなっていくかも知れませんし、進捗についてもそうならないかもしれない。それから、あと重要度については、より、観点による重要度の評価というのは違うと思いますので、ここについては多様な意見をどういうような形で、最終的に報告していくべきかということについて、検討を進めていくということになるのではないかなと思いますが。

いずれにしても、まずはそれぞれが評価をしてきたものを出し合って、共有できて一つの観点でいけるなということになる部分については、それをやっていったほうがいいと思いますし、これは難しいねということが見えてくれば、ではこれをこれだけの人数で評価しているわけですから、ここからの報告としては、どういう形で市民の皆さんに報告すればいいのだろうかということになると思います。

○伊藤（麻美）委員

ありがとうございます。

○廣瀬委員長

いかがでしょうか。中身については、今のようにこれから議論することになると思いますが、そのフォーマットとして、今後も更に１２０事業でしょうか、それについても、このフォーマットでずっと、まずはやっていって、それぞれについて、各回の委員会で１０何項目、２０何項目を議論していくということ

で。今日、後で内容に入って問題があれば、また立ち返るとして、それがなければ、とりあえずはこのフォーマット、進捗をこの形式、そして、定性的なコメント、それから重要度について、Ａ，Ｂ，Ｃの３段階で定性的なコメント。これで、継続していくということでよろしいでしょうか。

（～各委員から「異議なし」の発言あり～）

○廣瀬委員長

それでは、今日は取りまとめシートという形で、各委員さんからの評価の結果が取りまとめられていますので、基本的にはこれを各事業ごとに見ながら進めていきたいと思います。進め方でございますけれども、まず、事業一つ一つについて検討していくということになりますが、まずは、評価そのものの検討というよりも、まず、評価するために取りあえず、内部評価のシート、それから関連する付属資料を前回配付していただきました。また、関連する市のホームページの関連する項目を参照したりということも必要に応じてやっていただいたりしておりますが、事実関係といいますか、取組状況について、もう少し聞いてみないとまだ評価できないのではないかという点もあろうかと思いますので、まずは、この担当部局に今日は来ていただいておりますので、１事業ごとにですね、評価をする際にもうちょっと、こういう情報がないとわからないなと思った点等がありましたら、まずはそれを担当部局との質疑の中で、確認をして、場合によってはそれを踏まえて、事前に出していただいた評価は必要に応じて修正をしていただいても結構ですので、それを交えてこの委員会として、どう評価をしていくかということを検討したいと思います。

（Ｉ－１　マニフェスト検証大会を毎年開催）

○廣瀬委員長

では、まず、「Ｉ－１　マニフェスト検証大会を毎年開催」の事業に進んでいきたいと思います。

まず、取組実績や成果などについて、担当の所管課に確認したい点などございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

では、この項目については、評価内容にすぐ入ってよろしいでしょうか。

では、委員評価取りまとめシートの１枚目、１ページ目になりますが、では、まずは、概括的に、何が何項目、何点がいくつ等ありますので、事務局からその概括的な報告をいただいて、各委員から必要な補足、あるいは説明がありましたら、お願いをしたいと思います。では、事務局から概括的な説明をお願いします。

○事務局

進捗度でございますが、「ｂ」の予定どおりに実施していると評価いただいた方が１１名、「ｄ」の事業に着手していない、あるいは目標に対して大きな遅れがある」という方が１名で、加点要素ありという形で、８点の評価をいただいた方が３名、加点・減点のどちらでもないの７点を付けていただいた方が８名でございます。重要度についてもご説明させていただいてよろしいでしょ

うか。

○廣瀬委員長

いったん、まず、進捗度の評価で切りましょうか。

では、まず、進捗度の評価でございますけれども、ａ，ｂ，ｃ，ｄの評価については、おおむね「ｂ」の方が多かったと思いますけれども、「ｄ」も１名いらっしゃいますが、これについて、「ｄ」をお付けになった伊藤巖委員からちょっとご説明といいますか、まあ、ここに書いてあるとおりなのかもしれませんが。

○伊藤（巖）委員

ここに書いてあるとおりです。尺度が違いますから、この検証大会をやることが目的ではないので、ゼロにしました。開催をすればやったことになるということとは、ちょっと違うのではないですかというような意味です。ですから、私は、評価の点数としては、評価しなかったということです。

○廣瀬委員長

おっしゃる意味も理解できるポイントではあると思うのですが、特にこの項目について、言ってみれば、しあわせ倍増プラン全体の評価・検証のサイクルとそれの公開についての仕組みについて決めているところですので、何と言いますか、内容についてそれが、やればいいというものではなくて、やった中身がどうかという評価はおそらく全体を通して、ということになろうかと思うのですけれども、しかも今年は初年度ですから、取りあえず着任後、しかも昨年度いっぱいということなので、そこの評価について言うと、全体を通して、例えばこの委員会として、評価・検証、報告会を行うとなっていますから、そこの場で議論をしていくべき話かなと、ちょっと、話を聞いていて思ったのですが、取りあえずこの項目について言うと、その検証の仕組みをつくるという第一段階が、初年度に設定されていて、それで、その仕組みをつくるというのが、その基本となる計画を計画として確定をして、それから、計画を確定した後の検証のシステムというものに着手をするということで。

○伊藤（巖）委員

そういうことでしたら、それこそ、平均点を間違いなくつける必要性があるのであれば、最初から評価をそういう格好で入れてもらってもいいのです。目標に向かって進みますよということを、お題目についてのことだけだとすれば、それはそれでいいですよということです。私は計画よりもそれからの中身の方が問題だと判断しました。

○廣瀬委員長

それは、この委員会の、評価全体を通して評価をしていくというポイントだと思いますので、このＩ－１という事業項目を、初年度どこまで取り組むと約束したことを、実行したかという点で言うと、そのとおりにはやっているので、そこは「ｂ」ということでも、構わないということでよろしいですか。そうすると全員一致で「ｂ」ということにはなるのですが。

○伊藤（巖）委員

その方が、皆さんが理解できるのであれば、それはそれでいいです。一応、

私の意見は、看板よりも中身を見たいなということがあります。「ｂ」の７点にいきなり上がってしまうというのも不自然ですけれども。

○廣瀬委員長

そこのところは、いわゆる達成度評価の観点からということで、ご理解いただければと思いますが、そこについて言えば、例えば重要度の中で、そういうコメントを出していただくというのが一つではないかと思います。

○川嶋委員

私は加点をした方ですが、２回この冊子（しあわせ倍増プラン２００９）を読みました。まだしかし、読み方が足りないと思います。

そこで、このしあわせ倍増プラン２００９の市民参加による第１回目の検証大会、この位置付けを全体プランの中で考えた時、このプランを成功させていくには検証大会を決起集会みたいな全体がまとまっていくようなことを計画を進めていく途中ではさみながら盛り上げていくのがいいと思います。

その事業計画の初年度として、プロジェクトができたり、戦略会議が熱心に行われたことが具体的に見えますので１点加点させていただいたということです。

○廣瀬委員長

ありがとうございます。これは、「ｂ」の中で、加点をする、しないでいうと、加点をされた方が３名、加点をされなかった方が８名ということで分かれていますけれども、他に加点をされた方から、加点をした趣旨についてご発言があれば。

○磯田委員

今、いただいたお話とほとんどかぶるのですけれども、やはり積極的な取組が見られたということで、評価しまして、１点加点をいたしました。

○橋本委員

私も、まったく同じなのですが、最初、見せていただいたときにですね、書式がいつも出てくる行政からの書式とは違うかなというふうに思ったのが一つあったのですが。市民の方に、このプログラムをやっていく中で、皆さん聞いていただくほうにですね、このプラン自体を知らなかった方がかなり、多かったなというのが、やはりありましてですね。もう少し、取組として、市民に対して、告知の部分をもう少しできたのではないかなと。ホームページは意識を持って自分からアクセスしないとどうしても見れないものなので、何らかの、例えば市報をもう少し組み替えて、こういった表示をつくるとかいうことがあったのかなと、今、出してから思っています。このようにつなげていこうという姿勢があったというところで加点をしました。

○廣瀬委員長

加点をした方からは、加点をした理由についてのご発言がありましたが、他の方々は一応、標準的な進捗をしていることで、７点という方が多いですが、他の方からはいかがですが。

○延原委員

私は、都市経営戦略室が、「市民に見えるように公表した・・・・」と３行

ほど記載し、「内容を評価し、加点しましたと」と自己評価していますが、加点するほどのものではないと思います。判定は非常にシンプルです。この程度のことを追加してやるのは、当然のことではないでしょうか。評定根拠はそれだけです。減点も加点もしない。それが私の評価です。それと、平成２２年度の評価を、また来年するわけですが、コメントとして申し上げておきます。検証大会が１１月というのは、第二四半期が終わってしまった後に、その前年の検証大会をやるなんて事は、どう考えても遅すぎます。第一四半期が終わった時点で前の年の検証大会をやらないと、その年の修正が利かなくなります。これはあまりにも遅すぎます。

○事務局

今のご指摘の点は、確かに我々としても、課題として認識をしておりまして、初年度ということで確かに、遅く始まったことが、そのまま検証大会の遅れに結びついております。前年度の取りまとめを１か月間くらいで内部評価として準備させていただいて、５月ぐらいにスタートすれば、９月くらいにはということで、第一四半期後、まあ、半年後くらいにはなってしまいますが、それくらいで何とかできればなという気持ちは今のところ持っています。

○延原委員

ぜひ、次年度からは、そうお願いしたいと思います。

○廣瀬委員長

それでは、達成度評価に戻りますが、まず、これをどういうふうに、委員会としての評価、どうまとめるかなのですが、まずは、進捗度そのものについていうと、ａ，ｂ，ｃ，ｄの中の評価、委員会全体としての結論を集約する、ｂとａの間、ｂプラス、ａマイナスなどという言い方があるかもしれませんけれども、これは、かなりあいまいな言い方になると思いますし、委員会としては、ａ，ｂ，ｃ，ｄのどれかというのは、議論の中で、納得をして、この辺ですねという結論が得られればベストですし、場合によっては多数決ということもあるかもしれないということで、これについては、まずは、進捗度、ａ，ｂ，ｃ，ｄについては、４つのうちのどれかで、委員会としての結論を出すということが必要だと思いますが、それで、よろしいですね。

それで、加点・減点については、ここは一つの考え方としては、そこも含めて全部そろえるところまで議論するというやり方もありますが、もう一つとしては、ここは、矢印についてはどうするかというのは別ですが、８点と、７点がいくつかずつということになりますと、これは例えば、８点と７点との間で、平均をとると７点いくつかになると思いますが、それにするのか。あるいは、あくまで議論をして、ここは８点なのか、７点なのかということについて、結論を出していくのか。微妙な差が表現はできますけれども。

○延原委員

いずれにしましても、この評価結果というのは、１１月の検証大会で市民の方にお示しする数字ですよね。７．６とか、７．８とか言うのは意味がなく、ａ，ｂ，ｃ，ｄで十分だと私は思います。その公表するａ，ｂ，ｃ，ｄだけを決めれば良いと思います。７，８，９というのは評価をする我々と、評価され

る人たちの中の細かい話と思います。評価点数を頭に置きながら、ａ，ｂ，ｃ，ｄを決めていけばいいというのが私の考えです。

○廣瀬委員長

議論をする際に、ある程度それを踏まえた議論をするけれども、最終的に委員会として、それぞれについての進捗度の評点としては、ａ，ｂ，ｃ，ｄのみを出したらどうかというご提案ですね。

○東委員

そうすると、点数に読み替えると基準点だけになるのですね、９点、７点、５点、２点と。

○廣瀬委員長

その場合には、何といいますか、よく行うのであれば、一番上のところは、ちゃんと満点になるようにという点のつけ方はするかなと思います。これは、加点要素を見込んでいるので、ａの場合の標準得点が９点になって、加点のないａの場合は、１点マイナスになっていますけれども、１０の刻みではなくて、つまり４つの刻みで表現をすると。

○延原委員

この委員会では、ｂの９点とか、ｂの８点と評価するのは構わない。公表するのはｂだけでよろしいのではなかということです。事務局は多分、７点や８点の点数が記録として欲しいのでしょうから、委員会の中では点数は残す。

○川嶋委員

おっしゃられているのは、進捗のｂというのを発表するということですか、それとも点数をａ，ｂ，ｃ，ｄに置き換えるという意味ですが。

○延原委員

いいえ、そうではなく、公表するのはａ，ｂ，ｃ，ｄまでで、個別の細かい点数まで発表する必要はないと思います。委員会では評価点数を決れば良いと思います。

○廣瀬委員長

その趣旨ですと、７か８というのは決まるのであれば、議論して決めようという趣旨ですか。

○延原委員

そうです。

○栗原委員

今の話も含めて、評価の仕方というところで、全体的なことなのですが、例えば、このマニフェスト検証大会というお話をしていますが、この中で、皆さんから、それぞれいろいろなご意見がある中で、せっかく、ａ，ｂ，ｃ，ｄだとか、矢印だとか、点数だとかが決まっているのであれば、やはり、とりあえず、それを一回は決めるべきだと思います。なおかつ、それで、例えばこれをパッと見ると、明らかに、ｂの７というのが多いわけで、それをこの会議として、まず、一個基準として、決めてしまった方がいいと思うので、そこから、皆さん、いろいろと意見が分かれるでしょうから、それに対して、自分はこう思うからプラスしたほうがいいのではないかとか、いや、それはマイナスでは

ないかというふうにやっていくのがいいのではないかなと、僕は思ったりするのですが。

○伊藤（麻美）委員

今の意見に賛成なのですけれども、冒頭に言いましたけれども、考え方というのは、本当にさまざまですし、この８と７とかの数値に対しても、想いというのは違うと思うので、多分、数値というのは大切な要素だと思うので、もちろん、ａ，ｂ，ｃ，ｄでやってしまうのであれば、点数もいらないのかなと、最初は思っていたのですけれども、多数決で７が多いのであれば、大まかに７と決めて、その中で、どうしても譲れないという意見があれば、しっかりと皆で聞いて、また議論をしながら、最終点数を付ければいいのかなと思います。

○町田委員

私は、委員会で議論して、「最終的な具体的点数を決定する」という点では、違う意見です。私も同じｂの中でも、上矢印のプラス評価、下矢印のマイナス評価というのは、人それぞれの考え方や想いがあり、点数として違う結果になるのは、いたしかたないという点では、同じ意見です。

しかし、さまざまな意見が集まる委員会の中で、点数を６とか７というように具体的点数としてひとつに決めるというのはなかなか難しいのだろうなと思うのが、個人的な意見です。それならば、それぞれの委員の点数をすべて平等に扱ってしまって、ｂという評価の中でも８から６までの幅があればあったで、それを平均点数化して、その平均点数を評価点とすればよいと思います。平均化した数値として割り切ることで公平性が図れて、７．２とか６．５という形で評価点とするほうがよいと考えます。ｂ評価の内容を補足するものとして説明もできます。点数を決定するにあっても、それぞれの点数の平均点を出すのみなので、決定の際の事務手続きも簡略化でき、ある意味、公平性が保てると思います。

○廣瀬委員長

平均するのか、それとも議論をして、８か６かできれば決めようよ、ということなのかですが。

○東委員

これははっきり違うのでしたらね。６点なのか９点なのかというのであれば、論議を及ぼすと思いますけれども、ちょっと上げるか、ちょっと下げるのかという、そこのところを決めるのは、本当に、かなり、どうか。そう言われればそうだし、みたいなところがどうしてもあるのではないでしょうか。

○廣瀬委員長

それぞれご意見はあるでしょうけれども、半々で７の人と、８の人がいたら、７．５と割り切った方がいいのか。

○東委員

その方がわかりやすい。

○川嶋委員

平均点を出していく方が、結果的にはいいような気がするのですけれどもね。

○東委員

ただ、ざっと見てみますと、この項目は割とそうなんですけれども、ほとんどの方の評価が、７か８かになっている。ほかの項目でもっと評価が離れているものなどがありますが、そういうのをちょっと論議をして、どういうふうに我々として考えるかということは、しっかり捉える必要があるかなと思います。

○廣瀬委員長

いずれにしても、見解が分かれるもの、どういう観点で評価してきたのかというのは、この場で出して議論を進めるべきだと思いますので、まずはそうやって論点を出した上で、これは、もうすぐにまとめようというものが仮に出てくれば、すぐにまとめればいいと思いますが、そうでない場合は、平均点をとるという形で行きましょう、ということでよろしいでしょうか。

おそらくもう一つは、進捗評価というのはとにかく予定を立てて、そこまでこなしたということで、基本がどうしても７になっていきやすいということもあるので、そこの取組の仕方とか、その辺でもう少し、個々のよくやったところの、とりあえずよくやったところの差をにじみ出させようというか、ある程度表現しようとすると、やはりその差が出るように少し見込んだほうがいいというか、そうでないとｂばかりになってしまう、ということがあるかもしれません。

それでは、これにつきましてはいかがでしょうか。一応、７が多数派ではあるのですが、一定の積極性を持ってやっておられるので８を付けた方がいいと思った方も３名いらっしゃいますが。これは、その比重で平均型でよろしいですか。

（～各委員から「了承」の発言あり～）

○廣瀬委員長

それでは、伊藤委員の評点はどういたしましょうか。

○伊藤（巖）委員

私は現実的な話でこういう評価をしたので、これは、大会を開催するに当たっては、何かクエスチョンかなという気がしないでもなかったのですけれども。それで、こういう格好にしたのですけれども。いいです。

○東委員

伊藤さんが言う気持ちも、私もわかるのですよね。初年度を評価するということもあって、まだ、着手したよという段階のものが多くて、着手することになっていて、着手したのであれば、それは満点だという話になるけれども、着手すればいいということで評価をするというのは、確かに他のところでも僕自身も迷ってしまう、困ってしまうというか。

○延原委員

前回も議論したとおり、着手した、あるいは１０回やるといったところを１０回やったのだからそれのみで評価すればいいと思います。　また、１０回の内容までは問いませんということに結論付けたと理解しています。しかし、２年目からは、その内容まで厳しく評価すればいいと思います。

○廣瀬委員長

進捗については、やはり、やったか、やらないかを、まずは見るということ

なので、初年度ここまでやるという計画を立てて、それがこなされていれば、まずは基準点だということを前提にして。他方で、ただ、そのやり方の内容等にいろいろと問題提起とか、このように今後やって欲しいということがあれば、それを例えば重要度の評価理由等のところに、ちょっと、重要度というと少しずれがあるかもしれませんけれども、そこのところで表現をしていくというところで、受け取っていいかと思いますが、いかがでしょうか。

○栗原委員

僕はちょっと違う見方から、伊藤委員に賛成なのですけれども、しあわせについては、各個人で尺度が異なる、とこれは、本当に当然のことで、結構、しあわせというのは、言い方が合っているかどうかわからないのですが、危うい言葉で、本当に人によってまちまちですので、そのしあわせ倍増プランという、必ずしもこれが、すべての人が幸せになれるかというと、きっとそうではないでしょうし、そう考えると、この会としては、ｂの７というのが妥当だと思うのですけれども。そのつけ加える文章の中に一つ、そういうところを入れてもいいのかなと、しあわせというものは、個人の尺度が異なるということを、まあ、今さらタイトルを変える訳にはいかないでしょうけれども。

○廣瀬委員長

その観点を、達成度と重要度と、ちょっとどちらでもない感じはしますが、ある種の評価。

○東委員

政策そのものについて。

○廣瀬委員長

政策そのものなのですよね。一種の補足的というか、付言的な意見として、そういう論点があれば、フォーマットについては、あとで考えたいと思いますが、何らかの形で、そういう定性的に評価というか、コメントをしたいものについては、できるだけ生かしていくということでしょうかね。

それでは、まず、委員会としては「ｂ」の進捗度でよろしいと。点数については、平均の点数からは伊藤巖委員については、平均の集計からは、いったん、外させていただくという前提で、残る人数でもって、７と８の間の、これは計算は後でやると。

○事務局

計算についてですが、ｂ評価をいただいている方の平均ですと、７．２７になります。ｂ評価をいただいている１１名の方の合計が８０点になりまして、１１で割りますと、７．２７になります。

○廣瀬委員長

７．２７は四捨五入で、７．３でいいのではないでしょうか。いかがでしょうか。

（～各委員了承～）

それでは、重要度に移りたいと思いますが、これについて、概括的に数字を報告してください。

○事務局

Ａの重要度が増しているという方が６名、Ｂのかわらず重要であるという方が４名、Ｃの重要度が低くなっているという方が１名でございます。

○廣瀬委員長

これは、割れたといえば割れたのですが、重要度をどういうような観点で評価をするか、増しているという、やや時系列的な表現になっていますので、これは、計画策定時に比べて、より重要になっているという趣旨であるか、あるいは、１３９事業の中で、より重要なポイントの項目はこれだよという趣旨であるのかということで、ちょっとここは理解を統一した方がいいのかなと。それで、それにあわせて、重要度の評価方法の言葉についてもですね。増している、低くなっているでいいかどうか、あるいは、変わらず重要であるという言葉。

○延原委員

前回、委員長が、重要度の項目を入れませんかとご提案をされたが、委員長のご提案の趣旨は何でしょうか。

○廣瀬委員長

私は相対的な重要度ということではないかと思っているのです。ただ、今回やってみて感じましたのは、いったん、条例などで完結をしてしまうもの、例えば報酬ですとか、任期ですとか、まあ任期については、できていないわけですけれども、結論がでてしまったら、あと、それについて、追加して取組をしていくものはないということについては、できてしまうまでは、言ってみれば重要なものかもしれないけれども、完結してしまったら、翌年度以降についていえば、もう終わっているので、予定どおりできているので、点は低くはならないけれども、もうこれを重要なものとして注目しておく必要はないというものもあります。これが、入り混じっているのかなというふうに、感じたところでもありまして、特にＣ評価についていうと、まさに完了したから低くなっているというようなものが多いのかもしれない。経年的にそれが完了してくると増えていくのかもしれないなと思っております。

○長野委員長職務代理

委員長からもお話があったことですが、一斉に１３９事業スタートして、１年経って、２年目に入ったところで、追加で政策的に資源を投入しなければならないものは、当然、重要度が増してくると、それから、もうやってしまって、所期の政策目標を達成したものについては、追加で政策的な資源を投入する必要性はないので、その面では重要度が低い、つまり、追加投資はいらないという考えで、追加投資のいらないものについては、Ｃを。それから、組織は１回サイクルが回るために、手順とかをつくるとか、やり方に慣れるまでが時間がかかるので、それまでは頑張るけれども、１回まわり始めると結構普段どおりいくというようなものについて、新しい政策的な資源を投入する必要はもうなくて、ルーチン化するものについては、経常化してきたので、Ｃというつけ方をさせていただきました。重要度は低くなった、変化したので、ということで今回は付けてまいりましたが、それだと、実は相対的な１３９事業の中での位置付けというものは端折ってしまって、追加的に投資が必要かどうかというだ

けで、評価させていただきました。そういう意味では増しているという変化を重視してまいりました。

○東委員

私は、１３９個の事業の中の相対的な重要度の評価を、もともと前回の委員会で、委員長が言われた１３９事業を評価するというのは前例がないくらい数が多いという話から始まって、ちょっと、絞って考えていく、重要度を決めたらどうかというふうに理解しましたので、Aについてはぜひとも考えなければいけない、Bは考えた方がいい、Cはそれほど重要ではないというふうに、そういうように理解しているはずなのですけれども、そういうつもりで私はA，B，Cを使いました。

○延原委員

私は、若干異なり、現時点において、事務局が作成した評価表の内容が去年に比べてさらに重要になっているか、変わらないか、もう意味がなくなっているかという観点から決めました。例えば、条例が定まったものは、もう意味がなくなったから評価もする必要はなく、Cとなり重要度はゼロとしました。或いは、現時点で、ある項目は重要度が昨年より増している場合は重要度を更に上げる、という基本的な考え方でA，B，Cを付けました。

○廣瀬委員長

前回の提案も、ややあいまいでしたし、実際に着手をしてみて自分自身の中でも、基準というものを、やや二重にもってきたかなと。率直に申し上げまして、Aを付けたものについて言うと、施策の体系の中での重要度という形で付けておりますし、他方でCというのは、ある意味、時系列的に、取組段階として、例えば長野委員がおっしゃったような、準備段階であるとか、あるエネルギーを注ぎ込まないといけないフェーズのもので、なくなっていく、完了していくというような形で重要度が下がったものについてCを付けたかなと。それで、これを２つの評価をここで、尺度がちょっと違うから欄を２つ設けるかというのもちょっと、ややこしい話だと思います。

○延原委員

今日は決めないで、いったんペンディングになさったらどうですか。

○廣瀬委員長

いずれにしても、内容面の評価について立ち入りたい場合、そこに入れるフォーマット、書く欄がやはり必要だと思いますので、重要度の評価理由のところで、そういう観点をできるだけコメントとして、評価していただく。それで、重要度について、なぜ、それを付けたかということをとりあえず表現していただくということで、当面進めてみたいと思います。それで、これについて、場合によっては、A，B，Cについてどう表現するかは、もう一回全体を通して確認をするということで進めたいと思いますが。まず、この「Ｉ－１マニフェスト検証大会を毎年開催」という項目についての重要度とそれに対するコメントでありますが。

それでは、A評価を付けられた方から、どういう視点でAという評価を付けられたのかについてご発言があれば、お願いしたいと思います。

○川嶋委員

厳密に分析して付けたわけではないのですが、全体として、やはり重要度としては高いなと。さらに、今後、進めていく上ではより重要度が増しているのではないかと。先ほどおっしゃられた意見を何となく頭の中でミックスして、Ａと付けました。今後より重要な事業だろうという意味合いです。

○東委員

私もＡを付けましたけれども、これは、これからの行政を進めていく上で、公開性、特に不特定多数のというと、ちょっと変な言い方ですけれども、さいたま市民なのですけれども、市民に対して、広く公開していく、そういう中で行政を市民から検証し、チェックをし、それで進めていくという手法、あるいはそういう姿勢でいくという、そのことの重要性ということは、すごくこれからの時代大事だと考えましたので、高い評価を、重要であるということでＡを付けました。

○猪野委員

Ａの評価をしたのですが、市民がこういうしあわせ倍増プランとか、市政のことを知るということは、やはり、機会を得るという意味では本当に重要なプランであると考えましたのでＡという判断をしました。それから、僕の周りの学生に、実はこのしあわせ倍増プランを知っているかというのを聞いてみたのですが、ほとんどが知らないという状況だったのです。そういうところから考えると、先に知るということが本当に大事だと思ったので、Ａという評価を下しました。

○町田委員

私もＡを付けました。自分の重要度の考え方は、すべて相対評価として扱うこととしての評価としました。１３９項目の施策について、施策そのものの重要度を、Ａ，Ｂ，Ｃというランク付けで評価しておくことは、一定程度必要と思っています。これは、年月の経過とともに変化する施策の達成度とは、関係なく評価されるものだと理解しています。今回もこの考えにもとづいて評価しました。ここでの施策Ｉ－１をＡにしたのは、東委員・猪野委員と同じ考えで、市民が自治といったものを考えるきっかけのツールとなるという期待を込めています。これから非常に重要になる施策だと考えてＡとしました。

○廣瀬委員長

Ａにこだわらず他の方から何か、この重要度についての評価でご発言されたい方、お願いします。

○栗原委員

僕は、Ｂを付けたのですけれども、その理由というのが、確かにすごく重要なことということで、Ａというのは理解できるのですけれども、実は、検証大会をやって、やっと一つのサイクルが終わるのかなというところで、評価ができないかなというところで、変わらずということで、Ｂを付けました。

○橋本委員

基本的にこの事業自体は非常に重要だと思ってまして、全事業の中で、では１年やってみて、これは変わらず重要だと思ってですね、もともと、Ａかなと

思っていたのですけれども、変わらず重要であると、ウェート自体は変わっていない、最初から高いポジションのものであるということで、ちょっとその辺はどの様に評価していいのかわからなくてですね、とりあえずＢにした、変わらずというところに引っかかってしまったと思います。

○廣瀬委員長

もとは重要であって、それは変わっていないだろうということですね。

どういたしましょうか。ここについては、かなり重要度自体の捉え方もバラバラだといいますか、いろいろとあり得ますし、また、非常に定性的なものでもありますし、これは、ならすということもあれですから、例えば、分布を示す、Ａいくつ、Ｂいくつ、Ｃいくつという形でとりあえず記録をしておく、それで、この評点で、今日の議論を踏まえて、このままでいいかどうかについてだけ、各委員から確認をいただくということでいかがでしょうか。それで、一つ一つここでやっていますと時間を要しますので、今日を踏まえて、これの重要度評価については、変えたいということがあれば、１週間以内くらいで事務局の方に変更があるものについてのみ、ご連絡をいただくと、なければ事前に提出された評価をそのままにしたいということで、そういう形で進めたいと思いますがいかがですか。

○磯田委員

自分はそこに入れなかったのですが、今お話があったように、基準なるものがよく理解できなかったということと、重要なのは全部が重要なような気がして、それをどういうふうに評価するかと言う話で、入れていくものか、後、全部出てきているものが一回終わった段階で、そういう評価をするべきものなのか、それがちょっと理解できなかったものですから。それで、次にいただいた資料に関してもですね、今、聞いただけでどの様に入れていったらいいのかも、ちょっと不安なのですけれども。

○栗原委員

実は、僕もその重要というのは、磯田委員がおっしゃったように、どれも重要だというのはすごく理解できて、それをどう判断するか、やはり埋めなければいけないなということもありまして、どうしたらいいかと、自分の中で、ちょっと優先度に置き換えて考えたところもありました。どれだけ優先的にやった方がいいのかという考え方でして、自分のそれを全部見て、本当にそれに則っているかなと微妙なところもあるのですけれども、基本的にはそういう考えのもとにやってきました。

○磯田委員

あまりそういうバラつきが大きくあるのでしたら、この評価というのは意味があるのかなと、自分は思うのですけれども。

○延原委員

重要度の定義が未だ決まっていませんから、今日はペンディングにし、前に進んだ方が良いのではないですか。

○廣瀬委員長

ちょっと、これは取りあえずの段階ということで、ペンディングにしておき

つつ、全体を通した後でもう一回、ということでいいかどうかということを検証しましょう。

○東委員

ここはもちろん、Ａ，Ｂ，Ｃとか、点数とかいうのは、大事だと思うのですけれども、ここのコメントがですね、一人一人の、簡単なコメントではあるけれども、ここにやはり、かなりいろいろな想い、市民の想いみたいなものが、市民の視点みたいなものが現れていると思うのですね。ですから、先ほど、７．３といってしまうのも、無味乾燥な数字だけになって行政は分かりやすいのかもしれないですけれども、ここのコメントのところを何らかの形で、報告の中で生かすような、そういうふうな形にしたいなと思いますね。

○廣瀬委員長

おっしゃるとおりだと思います。このままの形を残せるかというのと、もう一つは、こういう観点からこういう評価があった。それで、他方こういう観点からこういう評価をしたものが何名いた、みたいな形での集約をするか、いずれかと思いますが、１３９項目あることを考えると、どういう形で最終的に取りまとめるかは別として、あまりこれを一つの文章の中で、表現をしていくのは難しいかなと思いますので、当面、この取りまとめシートは取りまとめシートとして、委員会の結論として確定をするところとしては、進捗度、点数の平均点、それからＡ，Ｂ，Ｃの分布というものを記録しておいて、各コメントについては、まずはそのまま残しつつ進めるということでいかがでしょうか。

○伊藤（麻美）委員

まだ、始まって２回目ということもあるのですけれども、まだ、Ｉ－１で１時間以上経っていますよね。そうすると、１１月下旬までに終わるのかなという心配も出てくるのですよね。だから、確かにペンディングの要素もあるのですけれども、もう少し早く進められる方法が、やはり、すべてをクリアしていかなければいけないわけですし、皆さん限られた時間の中で。また、これが延びてしまうと、いろいろの施策も延びて、結果としてスピードアップできなくなってしまうと思うので。何かもっとその辺でアイデアとかないのかなと思いまして。

○廣瀬委員長

おそらく、この１項目目は、まずこの項目だけはちょっと、別種の項目だということと、もう一つは２項目目以降は、割合、ある意味で共通した観点で評価をしていけるものがいくつかずつまとまっておりますし、だんだんと観点というものが一致してきますので、おそらく最初が１時間、次が３０分、次の項目が１５分というような感じで、ペースアップできるのではないかなと、これまで別のところでやった評価も割とその様な形で進捗いたしましたので、今日はおそらく時間はかかるだろうと、１９項目というのはとてもいかないだろうと、内心思い続けておりますが、そうはいっても、もうちょっとはいくだろうと考えております。そういうことで、もうしばらく、議論をしながら、お互いに少しずつ共通した観点が出てきたら、スピードアップをしようということで。

○伊藤（麻美）委員

議論することは大切だと思いますし、多分、市民の方が後で読まれるともっと違う意見が出てくると思うのですよね。だから、すごく時間がない中で、無理があるのですが、一応、我々のミッションですから、しっかりとやれればなと思って。

○延原委員

たぶん、委員長はわざと１項目目は時間を掛けておられるのですよ。評価基準を委員会内部で統一するためのコンセンサスをとりたいので。

○栗原委員

一つ、スピードアップのためになるかどうか分からないのですが、もし可能であれば、これ（委員評価取りまとめシート）を事前に送っていただくのは一つの手なのかなと。なぜかというと、これを元に皆さん、話し合っているわけで、例えばその時間が、読む時間とかが多少なりとも短縮できるのであれば、またそこで進捗率が進むのではないかなと。

○事務局

そういう議論が内部でもございます。今回が初めてということで、委員の皆様からこの評価をいただいたのが、本当に近日でしたので、今回は物理的に不可能でしたけれども、今後ある程度考え方、評価の仕方というのが統一されてくれば、皆さんから事務局の方にいただける時間がスピードアップしてくると思いますので、事前に各委員の評価が必要であるということであれば、しかるべきタイミングで、お送りさせていただきたいと思っております。

それから、今のところ、もう一度確認させていただきたいと思いますけれども、進捗度の話は、度数分布的にａ，ｂ，ｃ，ｄをまず決めて、点数については、その中での平均点という形で決めるという方向、それから、重要度、ここにつきましては、重要度の分布そのものを記載すると、そういったことだったと思います。

それで、重要度は、前回の議論を踏まえまして、事務局といたしましては、ここに記載されているものは、すべからく必要である、重要である。その中で相対化していこうと、重要度の相対化をしていこうという話がありましたので、全部重要だということを前提に、重要度が増してきたとか、引き続き重要であるとか、低下してきたというような形で、１３９事業の中での重要度の相対化を図れればなということで、考えてみた案でございます。それから、この委員評価取りまとめシートの一番下のところに、共通コメント欄があるわけですが、これにつきましては、例えば、この委員会で出てくる意見、特記事項みたいなものを記載するといったパターンもあろうかと思いますし、それから、ある種、委員長案ということで提示するというパターンもあるのかなと思っております。場合によっては各分野ごとに主査みたいなものを置いて、各委員の方を割り当てまして、その方が、責任を持って書くとか、いろいろパターンがあろうかと思います。その辺は走りながらの検討かなと思っております。

○廣瀬委員長

１３９項目について、委員会として、一致したコメントを出すというのは、

可能かどうかというのは、進めながら検討していきたいと思います。
　それでは、まず、第１番目の事業、Ｉ－１については、このような議論で、進捗度は「ｂ」、点数は、平均すると四捨五入で７．３。それで、Ａが６、Ｂが４、Ｃが１という重要度で、ただ、それについては、補正される場合には申し入れていただくと、１週間以内にご連絡をいただいたものについては、それで修正をしますということで、進めたいと思います。

（Ｉ－２　タウンミーティングを全１０区で計４０回開催）

○廣瀬委員長
　それでは、続きまして「Ｉ－２　タウンミーティングを全１０区で計４０回開催。」という項目であります。
　これについては、事実関係等で、担当部署から聞きたいこと等がございましたらお願いします。
○延原委員
　タウンミーティングの定義に疑問があったので、２１回ではなくて、２０回開催と考えました。タウンミーティングは、私の定義では、あくまでもオープンなものであり、市民参加をオープンにして、その場に市長が来ていろいろな話をする、議論をするというものです。特定の集団をクローズドのミーティングに呼ぶのをタウンミーティングとするのは、私の定義の中ではない。そういうことでコメントを書きました。
○所管課職員
　これにつきましては、市長が市民と直接対話をするということが、タウンミーティングの一つの目的でもありましたので、第１回目ということで、自治連の正副会長さんとですね、タウンミーティングと位置付けて、実施したということでございます。
○延原委員
　そうでしょうね、そう思います。
○川嶋委員
　人数は、その時に想定というか、予定はされていたのでしょうか。何名以上とか。
○所管課職員
　タウンミーティングの人数なのですが、これにつきましては、さまざまな実施方法があるかと思います。それで、前期につきましては、１か所１０数人の方で皆さんに意見をいただこうという考えでございました。後期につきましては、もっと人数を増やしてですね、その中で公募の方と地域活動団体の代表の方たちにやっていただくという形をとりまして、いろいろなことを模索しているのが現状でございます。ただし、その中で、時間を延ばしたりとか、人数を増やして、最大８０名という募集で実施をしているところでございまして、正確に何人がいいかということは、検討しているところでございます。
○栗原委員

実は、先日、大宮区開催のものに出席させていただいたのですが、ちょっと疑問に思ったのは、資料の中に録音禁止というのが入っていまして、自分の認識の中では、オープンな意見をやり取りする場であると思ったので、もちろん、公開するのは問題ないと思うのですが、なぜか録音禁止で、写真撮影はわからないでもないのですけれども、その辺の見解はいかがでしょうか。

○所管課職員

やり取りの中で、個人情報とか、不適切な言葉とか、そういうこともあろうかなというふうに考えておりますので、参加者の録音につきましては、ご遠慮いただきたいという考えに基づいたものでございます。

○東委員

これの次のＩ－３が現場訪問という、別の担当セクションが担当課なのですが、例えば、自治会の会長、副会長のところに行くタウンミーティングと秘書課でやっている現場訪問、その違いはどこにあるのでしょうか。今は、オープンか、それとも特定の決まったところにいくのかという違いであればわかるけれども、オープンでないものがタウンミーティングに含まれると、現場訪問とそこの違いがあまり感じられないのですが。

○所管課職員

タウンミーティングにつきましては、事前にテーマを設定して、オープンでやるといった形で、公募とかの手法を使ってやるというのがタウンミーティングでございます。

○東委員

だとすると、極めて例外的なことであったということですか、正副会長というクローズドの会合にタウンミーティングを位置付けたというのは。

○所管課職員

これはですね、タウンミーティングをいろいろと模索をいたしまして、最初、第１回目だということで、まずは、自治連の正副会長さんの方へということで、考えましたということでございます。

○伊藤（巖）委員

私の感覚から言うと、各区の代表の自治会の正副会長が集まってのタウンミーティングだったのですけれども、最初に、タウンミーティングで意見交換をしますけれども、内容等について、確認しといてくださいということは全然なかったのです。市長が１０分遅れてきたので、話を、市長のあいさつがあって、そのあと議論ですから、本当に内容が、スムーズに進まなかった状況で始まったと思います。私、こういう意識があまりないと、ここに書いてありますけれども、そういうことですので、タウンミーティングという意識をしないまま進んでしまったためです。時間が遅れた事だけが頭に入ってしまって、ある意味打合せというか、内容がある話ではなかったなというのが実態です。それで、その時に公開ですとか、傍聴人がいますとか、言ったかどうか私も定かではないのですけれどもね。そういう状況での初めてだと思うのです。ということですので、各区の課題、問題とか、あるいは、市長がどういうふうに考えているのかといった話が出たくらいで、本当に認識して、こういう問題があったが、

どういう解決策を考えているのかというような具体なところまで、なかなかいかなかったというのが現実です。

○伊藤（麻美）委員

さいたま市の肩を持つというのではないのですが、タウンミーティングということ自体も、これから、まあ、第１回目は自治会に関連される方ばかりで、比較的意見を言えるところにいた方たちだと思います。必ずしもシステムがまだしっかりとしていない中でのスタートで、これから何回か回数を重ねていく中で、市民の方の発言が、発言するというのはすごい勇気が必要ですし、どのレベルの発言をしていいのかどうかというのも、すごいドキドキしながらだと思うので、まさにスタートなので、あまり、この辺は、まあ、意見があって、改正すべきは改正し、若しくは意見が言いやすい状況を、また、環境をさいたま市がどうつくり上げていくか、市長のあいさつを短くするのか、長くするのかとか、そういうふうに持っていかないと、最終的に終わってみて、何だったのタウンミーティングはということになり得るのかなということを感じました。

○延原委員

広聴課とは「広く聴く課」ですよね。それで、広く聴くのは、私はオープンでもクローズドでも構わないと思います。でも、クローズドでやるものは、市長のマニフェストに載るようなものではない。それは、市長が自分の委員会を作って自由におやりになればいいことであって、市民には無関係だと思います。ただ、市長が公に聴くというのであれば、それはすべての会場に参加する市民にオープンでなければならない。１０人しか参加しなかったらそれは仕方ないですよ。オープンにして来ないのであれば、それは宣伝する方が悪いのであって、市民に悪気はない。マニフェストの公聴、公に聴くということは、やはりオープンでやらなければいけない。そこら辺の定義がしっかりしていますかというのが、私の冒頭の話です。

○東委員

私もそれは良くわかります。案外細かいことを言っているようですけれども、２０回企画して２０回やったというのと、２０回企画して２１回やったと１つ多くやったという話なのですよね、今の１回をどう考えるかというのは。だから、僕もね、非常にクローズドの、オープンでない会合をタウンミーティングに、まあ、確かに第１回目だからお試しというのがあったのかもしれないですけれども、カウントするというのは変かなという気がするのですけれども。

○廣瀬委員長

評価にだいぶ入ってきていますけれども、２０回の計画で２１回やった。それで、そのうちの２０回はテーマを設定して、各区で１回ずつというラウンドを２ラウンドやられていて、その２０と、初回については、まだフォーマットが定まる前の段階で、まずは、１回目をやろうということで、各区の自治会の正副会長さんたちとおやりになったという、少し、それ以降のタウンミーティングとは違うスタイルのものが混じっていて、ただ、一応、タウンミーティン

グというくくりでもって、市のほうでは位置付けていらして、初回のときにもタウンミーティングとして、まずはやってみようかということで、試行されたと、そういうことですね。

ということで、これの進捗度評価のところに入ってよろしいでしょうか。これについては、数字をいただくということもいらないかな。とりあえず、伊藤委員からｃで、それ以外の方たちからｂという形で、予定どおり進捗をしたということになって、出ております。それで、評点については、伊藤委員がｃで、加点・減点なしの４点、それから、ｂの方の中には、加点が１名、減点が２名、残る方々が加点・減点なしで出ております。

これについて、まず、ａ，ｂ，ｃ，ｄのことを一つにまとめたいと思いますが、多分、伊藤委員、１回目をご自身参加なさって、これは違うのではないのということだと思うのですが。残り２０回を計画どおりにおやりになっていますので、そこを内容の面についてのコメントをコメントとして残していただいて、進捗については、やったということについては、ｂということでそろえていただければ、それで、一応、全体として一致できるかと思うのですがいかがですか。

○伊藤（巖）委員

いいです。

○廣瀬委員長

まずは、委員会としての進捗の評価はｂ、それで、点数についてはかなりの方が、加点・減点なしの７ということなのですが、これについて、何かご意見ないでしょうか。特に加点された方、減点された方がご意見があれば。

○磯田委員

８点を付けさせていただいたのですけれども、予定以上にできたということと、タウンミーティングの大事さということが良く理解されているという中で、今、内容についてはですね、伊藤委員さんの方からありましたが、自分もタウンミーティングに出たのですが、ちょっと内容的には問題点があったのかなと思う点もありましたけれども。ただ、回を重ねるごとにですね、改善されて、来年度にまた引き継いでいければですね、有意義なものではないかという意味もこめまして、８点を付けさせていただきました。

○川嶋委員

私はマイナスを付けています。１００万都市なのですよね、我が市は。その割にはこの参加人数は、やはり問題にしまして。回数はこなされた、しかし、中身はどうであったのだろうかと、実は、出席していないので、うがったことは言えませんけれども、ここにありますように、市長がテーマに沿ってまちづくりへの想いを市民に伝え、より多くの地域の声や市民の声を聴く機会となるようにと、それにしては人数がちょっと少ないような気がするのですけれども。もっとこれを盛り上げていくような、僕は市長が語るだけでも非常に効果があるような気がします。みんなの声を吸い上げるというのは、どちらかというと少なくてもいいのかなと。これは私の想いでございます。市長がやはり市民に語りかけるということが、ここでは重要な場であるような気がします。後

で出てくるＩ－３とか、Ｉ－４とかいうのは、逆に、市長さんがそういう現場を訪問することで、相当のインパクトと意義がある、ということで、多分、加点していると思います。こちらはそういう面では、いわゆる回数は、こなされたかもしれないけれども、こなすという言葉は良くないかもしれない、予定どおり進んだのですが、中身についてどうであったろうかなということでちょっと、落とさせていただきました。

○栗原委員

僕もマイナスなのですけれども、先ほどちょっとお聞きした録音禁止であるとか、そういったシステムというところもしかり、それから内容に関しても、正直、僕は１回しか出ていないのですが、出た限りですと、まあ、疑問符が、本当に書いてあるとおり、う～んと思ってしまうところが正直多くて、今後、タウンミーティングとしてのシステムは、すごく重要だと思うのですけれども、どうしてもその辺が納得できず、僕はマイナスにしました。

○延原委員

平成２１年度は、私はこれで結構だと思います。しかし、今、川嶋さんがおっしゃったように２２年度に関しては、広聴課が開催の中心になるのでしょうが、市民に対するタウンミーティングの開催宣伝が少ないと思います。休日に市民を集めて、市長が直に話をする、市長に意見を直に言うことは非常に大事なことで、もっと宣伝をされるべきだと思います。そのため、２２年度の自己評価の中に、参加人数も公聴課が自ら縛りを入れるくらいのつもりでやっても構わないと思います。回数は２０回で、１，０００人集めますと。それを公聴課の自己評価としますと。市長のところに多くの人を集めて、市長がいろいろな人と話しをする、市長がいろいろな人から話を聞くのは非常に大事だと思います。今年度や来年度の自己評価をどうするのかといったときに、ぜひ、重要課題として入れていただきたいと思います。

○東委員

私は、川嶋さんとは逆で、人数は入れない方がいいと思います。１２０万人の都市ですから、わからないでもないのですが。ただ、これは、もしかしたら、両者に責任があるのかもしれないですね。行政の側の今おっしゃった様にですね、広報がうまくないと、それから、やり方がうまくないと、魅力を感じないということなのかもしれない。けれども、一方、市民の側もですね、やはり積極的に市政に参加をして行こうという部分、多くの人がまだ思っていないというようなことがあるのかもしれません。ですから、僕が下手に人数目標を立てることに賛成しないのは、例えば、お役所は何とか人数をかき集めると思うのですよ。それで、何でもいいからとにかく来てと、座っててくれればいいから２時間みたいな、そういうタウンミーティングになってしまったら、これは逆にますます面白くなくなってしまう。形だけは、人数だけはそろえたよという感じになってしまうというのは、やはり、本来の趣旨とは違うと思うので。もし、まあ、ここは行政に対する評価ですから、その行政に対するやり方、今おっしゃったような広報が足りないとか、今、栗原さんがおっしゃったような、何かやり方に問題があるということであるのならば、そこのところについて、

ちょっと、コメントに何か入れるとかね。それで、評価していったらいいのではないかなと思うのですけれども。

○伊藤（麻美）委員

タウンミーティングに慣れるということ、このシステムがあるということを市民のみんなさんに知らせるということも大切なのですけれども、市長のスピーチを聴きにくるのであれば、人数は増えた方がいいと思うのですけれども、ミーティングというのは、お互いに意見交換をすることなので、あまり増やしてしまうと、逆に不満ばかりが残ってしまうことと、意見が言えなかった方たちが。それから、そのフィードバックしづらくなりますよね。件数が増えれば増えるだけ。どうでもいいものもあるのかもしれないのですけれども、フィードバックをしっかりタイムリーにできなければ、多分、意見を言う人もいなくなってしまいますし、本来のタウンミーティングの意味がなくなってしまうと思うので、その辺がしっかりできるかどうかというのも、重要なのではないかなと。

○廣瀬委員長

私も、加点と減点の要素が両方あって、２つあわせて、結局、プラスマイナスゼロを付けましたけれども、ホームページにかなり詳細の記録が出ておりまして、全部はとても読めませんでしたが、ある程度、読ませていただいたのですが、詳細な記録をとって、それも全部オープンにして、しかも、その場でおそらく全部説明し切れなかったけれども、補足が必要なことは、色を変えてちゃんと説明をされていたりする。そこは、非常に意欲的にやっている、そういう印象なのですが。他方で、同じテーマで１０区でやって、１０区からどのような意見が出て、そのうち、取りあえずそれは念頭において置きますというところで留まるものもあるでしょうし、いや、こういう点については、こういうふうに施策に生かしますというところまで踏み込まなくてはいけないようなものがあったのか、なかったのか。あったとすれば、今後どういうふうに具体化されていくかという、フィードバックのその先については、探し方が不十分なのかも知れませんけれども、少なくともタウンミーティングという項目で、ホームページで発信されている中では読み取れなかったのですね。それで、そこへ行って、発言したものが何になるのかということが見えないと、結局、宣伝をして、来ていただくという意味で人を増やすというのは可能になるのかもしれないけれども、何のためにそこに参加するのかという位置付けは、明確にならないのではないかなと。

意欲的に情報公開をされているプラスの面と、しかし、それが何になるのかというフィードバックの面の不明確なマイナス面とがあるので、プラスマイナスゼロなのではないかなということで、評価しました。

○延原委員

これは、清水市長の考え方になるので、この委員会の議論にそぐわないかもしれないですが、タウンミーティングで清水市長が確定的に何かを回答するということは、多分、有り得ないと思います。ここに信号を付けてくださいと市民から言われて、はい、わかりました、明日付けましょうというようなそんな

話はしてはいけないし、そういう会合ではないと思います。総論的に市民の話を聞くことが、私は大事であると思います。発言しない人は仕方がないので、ただ、少しでも多くの市民が参加できるように大きな部屋を使って、多くの人に集まってもらうのが、私は大事だと思います。タウンミーティングは議会ではないですから、私はここに道路や橋をつくりますけど、皆さん、ようございますかと、そのような話をしてはいけない。そういうことを清水市長は言ってはいないけれども。タウンミーティングには人は集めたほうが良いと思います。お役人が強制的に市民を集めたりすることではないですよ。もっと、宣伝して、皆が行きたいと思う雰囲気をつくるのが大事だと思います。

○東委員

魅力的なタウンミーティングになっていけばね、人は行ってみようと思うのでしょうが。

○延原委員

ただ、初年度だから、これで仕方がないのであって、私が言っているのは、今年度、来年度の話で、改善していってください。４年後のこの項目の検証がもっといいものになっていることを期待しますと、そういう意味です。

○廣瀬委員長

それでは、まずは、全体としての進捗度ｂで、加点・減点ですけれども、これについては、伊藤委員、やはりさっきの観点で言うと、平均の中から、平均値を出すときには外してもよろしいでしょうか。

○伊藤（巖）委員

しょうがないね。

○廣瀬委員長

では、残るｂの評価をつけられた方の中で７を下回る方、ほぼ７ですね。

○伊藤（巖）委員

今、磯田委員のほうから話があったのですが、一番上と、一番低い点数を逆に差し引いて平均値を出すのも一つの方法ではないですか。

○延原委員

オリンピックみたいですね。

○伊藤（巖）委員

そうでないと、あまり、極端な、両極端な部分を省いた方が、という意見が、今、私から出ましたので。私はいつも外される方になりますが。

ただ、団体の人たちがそれを見て、なんだよとなる可能性がなきにしもあらずで、私は積極的に参加したけれども、内容がないから減点ですよといったためにね。全然、違うよとなる可能性がなきにしもあらずということも、考える必要があるかと思います。

○廣瀬委員長

突出して低いということよりも、全体として進捗度についての委員会評価をｂとしましたので、とすると、ｂの中のどこかということを点で持って平均で出すとすると、そのｂ評価をされた方の得点のバラつきの中から、平均をしないとちょっと数字として一貫しないことになりますので、そういう趣旨で進め

ていいかということで、確認をお願いしたいのですが。ここで、１人ａの方がいて、１人ｃの方がいて、残りの方がｂでいうことであれば、ａの方とｃの方を外して、残りｂの方の平均点で点数をつくると。

○伊藤（巖）委員

たまたま、私と磯田さんが極端な点数になってしまったのですが。

○廣瀬委員長

この場合は、ｃ評価の部分の点数については、集計から外した形で平均を出させていただくということにしたいと思います。

それから、重要度の方にいきたいと思いますが、これについては数字出ますか。

○事務局

Ａが４名、Ｂが５名、Ｃが２名になります。

○廣瀬委員長

それぞれの趣旨として、文章で書いていただいておりますけれども、大分、ここまでの議論で出てきた、こういうことと重なると思いますが、重なること以外で発言しておきたいことがございましたら、お願いします。

それで、今の議論を踏まえて、Ａ，Ｂ，Ｃについての修正をされたい場合には、先ほどと同じように、１週間以内に事務局の方にご連絡をいただくということでよろしくお願いいたします。

それでは、続きまして、Ｉ－３に移りたいと思います。

（Ｉ－３　現場訪問を４００回実施）

○廣瀬委員長

「Ｉ－３　現場訪問を４００回実施」というところになりますが、現場訪問について、担当部署にご確認等がございましたらお願いします。

○延原委員

現場訪問を４００回実施の内容で、イベントに参加したとか、単にあいさつだけの参加なら、こういうのは現場訪問の定義には該当しないと思って質問状を出したのですが、事務局からのご回答の中身がよくわかりません。ご説明ください。私の考えでは、現場訪問というのは、市長が現場に行って、現場の人と話をする、あるいは意見交換をするということです。単に現場に行ってあいさつをするだけであれば、現場訪問だとは思わない。どういう経緯でこの４００回という回数を市長はやろうとしていて、スタッフはどう位置付けられたのか。

○所管課職員

現場訪問ですが、市長自ら、市民の中に入って、若しくは職員の中に入って、コミュニケーションをとりながら、直接意見交換をしたりとか、という話が一つあります。その中で、市長から市民の方に、市政はこういうふうになっているのですよとか、お話をさせていただいたり、若しくは、職員に対しても話をさせていただくことを目的としております。先ほどお話がありました、あいさ

つだけという話、確かにイベント等に行ったときには、あいさつをするのですが、その後に、それぞれの、例えばお祭りならば、ブースをできる限りまわりまして、市民の方とコミュニケーションをとったり、現場で何があるかということを、いろいろ見たりとか行っております。

○延原委員

それは、清水市長がそういうことまで現場訪問と定義しているのであれば、それはそれで構いません。しかし、私の考えでは、祭りに行ってあいさつして、ブースを回っているなどというのは、現場訪問とは思わないです。清水市長がどう考えているかわからないですが、何でもかんでも現場訪問と云うのならば、事務局が説明してくれた訪問も現場訪問にカウントできますね。しかし、定義がちょっと甘い、そこはスタッフがもう少し厳しく市長の現場訪問の定義をコントロールした方がいいのではないですか。

○所管課職員

今のご質問ありましたが、イベントという枠でいえば、こちらの資料にあるとおりでして、あとは、公共施設、公共的団体等ということで、片寄っている部分もあったのですが、初年度につきましては、市長自身も初めてのさいたま市ということもありまして、そういったイベントの中でのコミュニケーション、若しくは、組織の中でのコミュニケーションみたいなものを先につかみたいという部分があって、率先して行ったというのは事実でございます。現在は、それ以外、公共的団体では、ＰＴＡ協議会の方だとか、コンベンションビューローであるとか、そういったところ、若しくは、最近は障害者の団体から、例えばリクエストがあって、ちょっと来てくださいと、というようなところも、なるべく行くようにして、少しずつ行くところを広げるようにしております。

○東委員

今の話の最後にですね、障害者の団体からリクエストがあって、それでそういうところに行っている、そういうふうにやっているのだと、これからもやるのだということ自体を、ぜひ、市民に広報していただきたいですね。市民に市長さんから話をして、オファーをくれと、なるべくいくよと。この９階の市民活動サポートセンターは、さいたま市内の市民団体がすでに１００団体くらいが登録をしています。いろいろな団体がありますけれども、明らかに「新しい公共」的なことを担っている団体というのがたくさんあるわけですね。そういうところはぜひ市長にも知ってもらいたいと思うし、そういう人たちがどういう思いを抱えてやっているのか、いろいろな活動をやっているのかということは、これからの市政に大事なことだと思いますので、もし、そういう人たちのところに、市長が行っていいよということであれば、私からも言いたいと思うし、そういうチラシを秘書課がつくれよということであれば、ぜひ、チラシのつくり方も含めてですね、いいチラシにして置いておきたいと思いますので、ぜひ。僕は、実はプラスの加点を付けたのですが、そういうことを期待してという意味での加点ですね。

○廣瀬委員長

確認されたいことが他にあるでしょうか。

はい、では進捗度について、数値の分布についてまずお願いします。

○事務局

ａが６名、ｂが５名、ｃが１名でございます。

○廣瀬委員長

目標回数が７０回、それから、現場訪問はどこまでカウントすべきかという議論がありましたけれども、一応、市として現場訪問としてカウントされているのが９７回ということで、その数字が、おおむね１．４倍くらいですかね。ということを、それを含めて、予定どおりやっているｂ評価とされた方と、それから、それよりも、回数をたくさんこなされているので、ａ評価とした方と、それからｃ評価という形の分かれ方になると思います。それで、それぞれの趣旨についてですけれども、いかがですか。

○延原委員

私は、現場訪問の実態内容が良くわからないので、先ほど少し厳しめのコメントをしました。しかし、回数だけは達成しているので、ａの９点にしています。私がコメントに書いているのは、昨年度より今年度をより良く変えてください、来年度は更に良く変えてください、ということを申し上げている。２１年度は、単に７０回という目標値を、９７回出来たといっているのだから、それはもう満点ではないですか。　そういう判定で９点にしただけです。中身を評価しているわけではありません。

○川嶋委員

私もａの進捗度で、さっきあいさつだけ云々という話もありましたけれども、しかし、それも意義があると僕は思っているのです。最低やはり、必ずあいさつプラスアルファが何かあるはずなのですね。それがどんどん膨れていけば、非常に、効果があるように思います。それで、９です。

○長野委員長職務代理

ｂを付けた意見として、今回の計画目標として、公共的団体、市内企業、ボランティア団体等の活動現場等、幅広く分野を訪問しますという目標設定がされました。つまり、訪問回数という目標設定と訪問種類を目標設定されています。それで、今回いただきましたまとめの資料を拝見しますと、いわゆる幅広さを示す資料が読み取れなかったので、いわゆる回数は目標を上回っているので、ｂのプラス、つまり７か８にしているのですが、では、もう一つの柱であった幅広くという目標まで、どこまでいっているのかということに対しては、まだ、ちょっと、要努力ということだと考えましたので、ａではなく、ｂにし、しかし、さまざまなチャレンジをされようとしていますので、加点をした８ということにさせていただきました。

○東委員

私もｂのプラスなのですけれども、長野さんと同様に、区役所に行ったとか、公共施設に行ったとかいうのは、公共施設というのは、例えば、市立の図書館だとかですね、それって役所の中の話ではないかというような感じがしたので、７０回のところを９７回というので、すごい数をこなしたのだなと、目標値をすごい上回ったなという感じがあまりしないので、高く評価しなくていい

のではないかなと思ったのですね。これは、区役所に行ったとか、公共施設に行ったとかいうのは、どういう人たちと会ったのですか。

○所管課職員

区役所に行ったときはですね、例えば、フロアが２階あれば、そのフロアを全部回りまして、窓口のところ、若しくは職場の職員とのコミュニケーション等も一つの目的ですので、職員に話を聞いて、若しくは窓口に出て、そこでお待ちになっている方と少しお話をしたりとか、限られた時間ですので、すべての課をこまごまにとはいかなかったのですが、そういう形で回らせていただきました。

○東委員

例えば、ここにコミュニティセンターがありますよね、そういうところも公共施設だと思うのですが、そういうところでは、どういう人と会うのですか。

○所管課職員

例えば、こちらを例に取りますと、図書館は別なのですが、それぞれのブースというか部屋で、いろいろなイベントとか、催し物とか打合せとかやっていらっしゃいますので、そういうところで、お邪魔でない限り、中に入っていって、お話をできればですね、ということはやっています。

○橋本委員

私も、ｂ評価で加点の８点、７０回に対して９７回はしっかりやっていると、いうことです。その内容のところがどうなのかなと、今年度以降は、評価基準が、今回は、この評価だけれども、来年度以降は厳しく評価をしなければいけないかなと感じたところですね。私が、直接、市長とお会いしたのは、去年の大正時代祭り、与野駅の大正時代祭りだと思って、ああそうか、あの１回が入っているのだなと思ってみたら、どこに入っているのかなと思って、イベントで１０月の２３日だったなと思いながら、入っていなかったものですから、この辺の数値がどの様になっているのかなと思ったのですが。

○所管課職員

ちょっと、今、確認ができないのですが、もしかしたら、時代祭りに行ったときは、時間的に短かったのですかね、先ほどちょっとご意見がありましたが、あいさつだけで、ということがあるのですね。こういったところは現場訪問の回数にはカウントしておりません。

○廣瀬委員長

一定の仕分けというか、区分けをしていらっしゃるのですね。だから、あいさつをしても、とんぼ返りせざるを得なかった場合には、現場訪問にはなっていないという考え方をされている。わかりました。

これは、見事に割れておりますが。これをａか、ｂか、６対５でございますので、まさに難しいところでございますけれども。

点数的には、ａの標準の９点か、ｂの加点の８点かというのが多数派というか、それぞれの多数派だと思いますけれども。

○延原委員

委員長にお任せします。

○東委員

どちらでもいいのではないですか。

○延原委員

内容のほうが大事だと思います。

○廣瀬委員長

そうですね、内容のほうが大事だということで、しかし、川嶋委員からありましたが、現場に行くということによって、体感してくることによって見えてくるものとか、そういう要素もこの訪問というものに、現場訪問、それから次の学校訪問については、あるような気もいたしますので、１人分の差ではありますけれども、とりあえずａと、進捗度については、ａということで、ただ、先ほど、あの平均点をどうやって出すかというところで、そこで、ａかｂかという部分で、ｂならｂの中でというふうに申し上げましたが、これでいうと、ちょっと、ａにしておいて、それというのは、さっきとの一貫性からいうと問題かも知れませんが、とりあえず平均すると「８.」、いくつかになると。９よりちょっと低めのａ評価というのになるのですが、いかがですか。

○東委員

それでいいのではないですか。

○事務局

そこら辺が評価委員会の意思ではないかと思います。

○伊藤（巖）委員

いろいろと、現場訪問していますけれども、それが反映されるような状況とは、どうも感じられない、それが評価の低い理由です。もう少し、どの様な、何を見に来て、どういう意見交換をしている、という組織体制の中で、どういうふうに考えるのか、それが見えないので、評価としてはあまり期待できない、というところがあるので低かったということです。あいさつだけで終わる、あるいは、どうですかと言っているくらいが関の山だとすれば、それは公務で何回も行かせるような形にはなかなか見えない、実際のところですね。ですから評価がきつくなってしまうというのはそういうところです。

○廣瀬委員長

コメントの文章はこれでいいですか。感じられると書いていますが。

○伊藤（巖）委員

だから、少しやわらかくしたのです。ダメですとは書けない。私、常に会ったり、現場の状況を見たり聞いたりしている部分も結構ありますので、どうしても辛くなってしまうのはやむを得ないと思うのです。ですから、平均点を出す場合には、また欄外の方で出してもらっていいです。それはしようがないです、委員会とすれば。

○廣瀬委員長

それでは、平均点のところでは、９，８，７の平均点で。

それから、重要度ですけれども、Ａが３、Ｂが７、Ｃが１。

訪問をする、現場を見てくるということに対する重要度の見方、やはり非常に重要だという考え方もあるし、とにかく行けばいいという形だとすれば、あ

まり重要ではないという形でしょうか。

○長野委員長職務代理

私はＣにしたのですが、この評価シート、データを拝見したときにですね、コスト効率性の欄にですね、予算を掛けずに現場訪問を実現しましたと書いてありまして、本当はガソリン代とか掛かったはずなのになあということでですね、つまり、ここでですね、より重要であるということを反映するとなると、予算を付けてと、そういう政策のアクションになっていきますので、今年より予算を増やすのかと考えたときには、おそらく今年は間接経費に吸収されているという感じになっているかと思いまして。

○廣瀬委員長

今後、重点的に資源配分をしなければいけないという重要度はないということですね。先ほどおっしゃった意味でのそのＣへつながっていると、もうスタイルができたということですね。

そういう重要度に対する考え方が、それぞれイメージされているかと思いますので、Ａ３、Ｂ７、Ｃ１ということで。

会議室の関係もあるのですが、類似していますのでもう一点、もう１項目だけ進むということで、短めに進めるということでよろしいですか。タイムリミットですか。

○事務局

こちら、図書館ですので、閉館時間が縛られている関係から、できましたら、ここでいったん閉じていただければ。

○廣瀬委員長

わかりました。内心は、Ｉ－４か、できればＩ－５までいければと思っていたのですが。Ｉ－３で止まってしまいましたが、少し、今回を踏まえて、次回以降、進めてまいりたいと思います。

では、議題の（２）ですね、評価の内容については、予定より飛びますが、いったん、ここで切らせていただきたいと思います。

３　その他

○廣瀬委員長

それでは、その他の議題ですけれども、委員の皆様から何か今の段階で、チェックしておきたいこと、確認したいことがありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

それから、事務局からは何か連絡事項はありますか。

○事務局

それでは、次回の委員会開催に向けまして、今後の日程等について、説明させていただきます。

次回、第３回の市民評価委員会につきましては、８月１０日（火）１９時から２１時の日程での開催を予定しております。

場所は、浦和コミュニティセンター、同じ建物１０階の第７集会室を予定しております。

なお、お手元に、別紙、委員会の開催予定をお配りさせていただきましたが、第５回の市民評価委員会は９月１４日（火）を予定しておりましたが、恐れ入りますが、９月１５日（水）に変更させていただきたいと思いますので、委員の皆様には、日程の変更をよろしくお願いいたします。

また、評価資料につきまして、前回と同様に、次回、８月１０日分を、封筒に入れてお配りさせていただいております。そちらの評価を行っていただきたいと思います。

評価結果の提出方法につきましては、前回同様、メールで対応していただく委員さんには、電子データをメールで送信いたします。

郵送をご希望の委員さんには、返信用封筒をお渡しいたします。

また、評価をする上で、何か不明な点についてのご質問や、資料要求などがある場合は、都市経営戦略室までお問合せください。以上でございます。

○廣瀬委員長

では、資料、次回以降の日程、それから次回に向けての質問等についてご説明がございました。

今回の重要度等について、修正がある場合には、１週間後までにということで、先ほどありましたが、それも改めてご確認いただければと思います。

４　閉　会

○廣瀬委員長

それでは、他に何かないようでしたら、以上をもちまして、第２回しあわせ倍増プラン２００９市民評価委員会を終了いたします。